

サンゴ漁場調査

担当 当真 嗣 誠

1. 目的

近年衰頹状況にあるサンゴ漁場の開発を図らんとするものである。

2. 調査の目的

- (一) 期間 1965年4月17日～5月6日
- (二) 使用船舶 調査船、図南丸、159.31吨、400HP
- (三) 操業人員 図南丸乗組員、平良船長外17人
- (四) 調査海域

航1. 東大九會根の南西	25°-31'-15" N	126°-37' E	水深	367m	} サンゴ組合より調査 を依頼された漁場
	25°-27'-50" N	126°-37'-40" E	318m		
	24°-53'-30" N	125°-37'-20" E	178m		
	24°-54'-10" N	125°-39'-40" E	278m		
	24°-52'-10" N	125°-41'-50" E	243m		
航3. 多良間島北北西	24°-51'-35" N	124°-37'-10" E	338m		

航4. 与那国西方 スオー會根

(五) 漁具……… (構成及び仕様内容 前年同様)

3. 調査行程

4月17日…… 17時泊港出帆、途中、南々西の風が強く、海上大時化となり、19時渡嘉敷港で避難

- 4月18日……遂泊中
- 4月19日……08時、渡嘉敷発、16時から船1漁場で調査開始(投網1回)
- 4月20日……船2漁場を調査(投網4回)
- 4月21日……船1漁場の調査の海域を調査(投網4回)
- 4月22日……琉球珊瑚組合では当業船を、4月23日からスオー會根に誘導してくれる様、要請があつたので、宮古近海の調査は一応打切、与那国向航走
- 4月23日……当業船と打合せをするため久部良港外で待機
- 4月24日～5月2日
スオー會根一帯を調査(投網延17回)赤、桃、白サンゴの先枝が漁獲され、これらのサンゴの棲息している事を再確認した。
- 5月3日……08時、宮古平良港に寄港
- 5月4日……宮古地方庁と宮古珊瑚組合を訪れ、今次調査の経過報告
- 5月5日……船3漁場調査(投網2回)その後船2漁場を再調査(1回)して帰途につく
- 5月6日……10時30分泊港に帰省した。

表1 調査一覽表

調査海域	調査月日	調査回数	使用漁具数	損耗漁具数	未着底漁具数	風風	風向	流流	水深	海状	底況	採集物	備考
大九會根南西 底1 漁場	4月19日	1	7			N 5	SSW 約 1.9哩	SSW 約 1.9哩	340	砂、小石 で稍々平 坦	砂、小石	熔岩質小石、3ヶ	網の附着物少ない
◇	4月21日	4	28		7	NE 3	NE 0.5哩 SW 1~1.4哩	NE 0.5哩 SW 1~1.4哩	320 ~ 285	◇	◇	灰色の砂、熔岩質の 小石、サボテン、ヒ トデ、海松等	調査回数4回のうち 1回の漁具は着 底せず附着物なし
宮古北東 底2 漁場	4月20日	4	26		7	NE 4	SE/NE 約 1哩	SE/NE 約 1哩	300 ~ 140	◇	◇	硅藻、海松、熔岩質 小石、アスナロ、サ ボテン、ヒトデ、赤 サンゴの稚木	同上
◇	5月5日	1	5			SE 2	ENE 約 0.1哩	ENE 約 0.1哩	300	◇	◇	硅藻、海松稚木3本 熔岩質小石サンゴ礁	附着物少ない
スオ一會根	4月24日	4	28	2	14	ENE ~SE 3	ENE ~ NE 約3節	ENE ~ NE 約3節	360 ~ 210	岩礁、砂 凹凸多い	岩礁、砂	シチベサンゴ、サボ テン、硅藻、熔岩質 小石、サンゴ礁	4回のうち2回は 着底せず、凝掛り で漁具2組切断
◇	4月25日	4	24	6	5	SE 4	◇	◇	450 ~ 150	◇	◇	赤、桃色、白サンゴ の先枝、他シチベ サンゴ、サボテン、 海松、外雜藻	凝掛りで6組切断

調査一覧表

スオ一會根	4月26日	2	14	8		SE 4	NNW~ NE~E 約 3節	365 ~ 100	岩礁、砂 凹凸多い	桃色、白サンゴの先 枚、他シチベ一サン ゴ、サボテン、海松 雑藻	瀬掛りで8組切斷 瀬掛りで8組切斷
〃	4月28日	3	11	6		N~S 3	〃	370 ~ 125	〃	シチベ一サンゴ、サ ボテン、海松、海竹 等多量	ビン玉(径9寸) 11個 マグロ中古 網に取つけて2回 設置したが、3~ 4時間後には切斷
〃	5月1日	3	11	6	7	ENE ESE 3~4	〃	135 ~ 280	〃	赤サンゴの枯木、白 サンゴの先小枚、シ チベ一サンゴ、熔岩 質小石、他同上藻類	ドラム缶パイを設 置したが行方不明 となった。
〃	5月2日	1	3		1	NE 3	〃	260 ~ 300	〃	熔岩質小石、サボテ ン、シチベ一サンゴ 他雑藻で附着物少な い	漁具の瀬掛りなし
多良間北方 尾3漁場	5月5日	2	10			SE 3	NW 約 0.4	205 ~ 320	砂、小石 少々平坦	硅藻、海綿、サンゴ 礁、小さい雑藻3本	当地より北方1~ 2哩の地点に1本 釣漁船5隻操業中
計	10日	29	167	24	組 41						

※ 損耗漁具の切斷ヶ所は鍾石の上部附近やローブの中間辺でマニラローブが主であった。

4. 調査の結果

珊瑚漁協より、調査依頼を受けた漁場は、Ⅱ2漁場で赤サンゴの稚木1本採集されたのみで、Ⅱ1～Ⅱ3漁場共海底はやゝ平坦で、底質は砂多く、サンゴの生える条件とはほど遠い様であり、サンゴ漁場としての価値はまづたくない。

スオ會根は1964年12月9日深海一本釣漁場調査の際、同會根の南東側N 24°-35.8'、E 122°-20.5'の地点にて薄桃色のボケサンゴの枝を一本、釣具で引掛けたのが、本調査の発端である。

結果は表1の通りで、潮流速く、漁具の損失が多く、意の如く操業出来ないのが実状であつた。

結局得られた漁獲物は赤サンゴ、桃色サンゴ、白サンゴの各先枝と、赤サンゴの落木3本であつた。

5. 各漁場の表面と中下層水温 (表Ⅱ)

漁場	大九會根南西 Ⅱ1	宮古島北東 Ⅱ2	多良間島北方 Ⅱ3	スオ會根 Ⅱ4
水表面	23.2	22.6	23.5	26.4
温 150m	22.5	22.05	21.20	21.80
° 300m	18.20	17.85	18.10	12.90

水温の分布は前表のとおりで、スオ會根附近漁場は各層の水温差が大きいこのことは地理的に観察して、會根の南～西側が深部となつており、その深部の冷水帯が激しい潮流に押し上げられるからであろう。

6. スオ會根附近の潮流

北太平洋海流図(Ⅱ6031 A,B,C,D)の資料によれば、スオ會根附近の海流は年間平均時速約2.5ノットで最強時期は、4・5月の3.5ノット次いで12・1・2・3月3.0ノット 6・7・8・9月2.0ノット 10・11月1.6ノットの流程である。

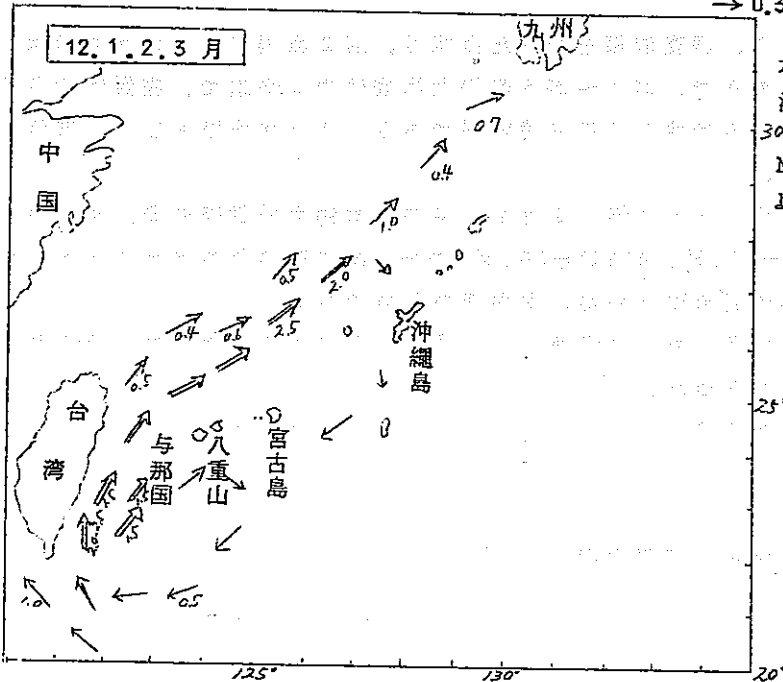
(海流図参照)

<所感>

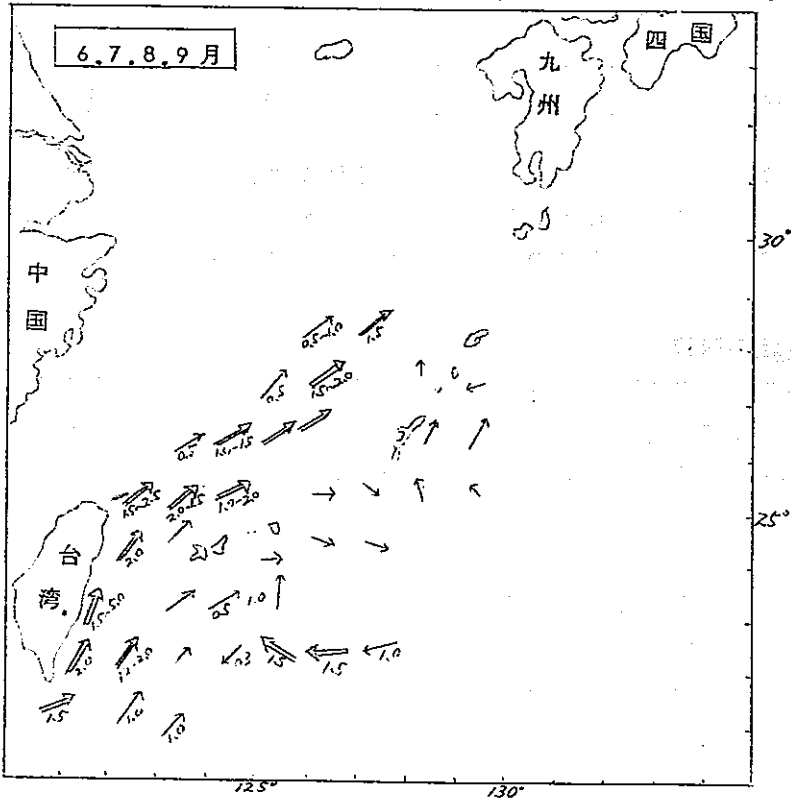
スオ會根にサンゴが棲息していることは今回の調査で再確認された。しかし、黒潮の激しい流域に位しているため、操業が意の如く出来ないのが残念である。よつて当漁場で操業するには、海流の最も衰弱する秋季から冬期に出漁するのが、得策と思うが確信は持てない。

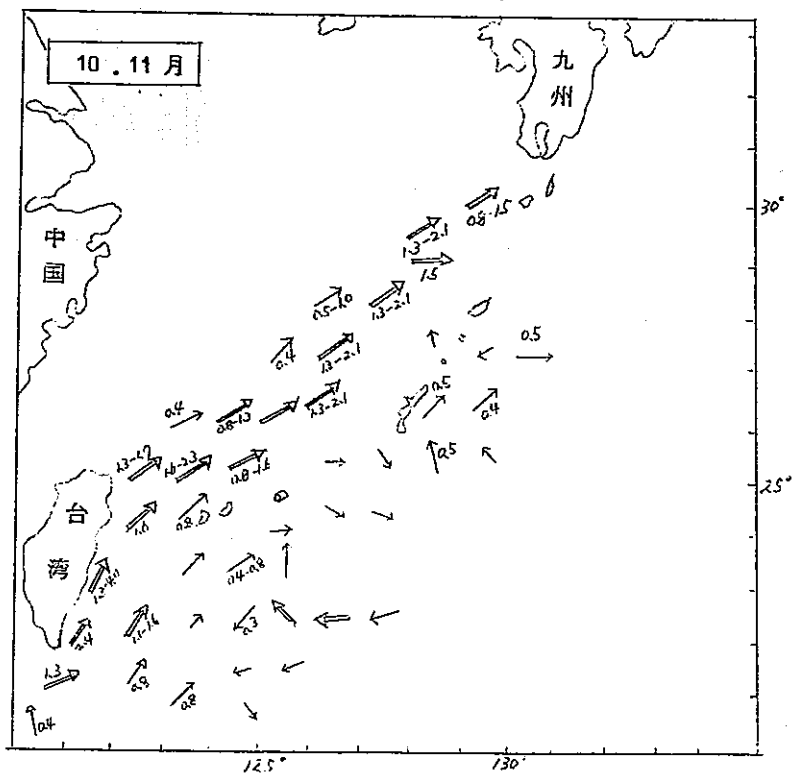
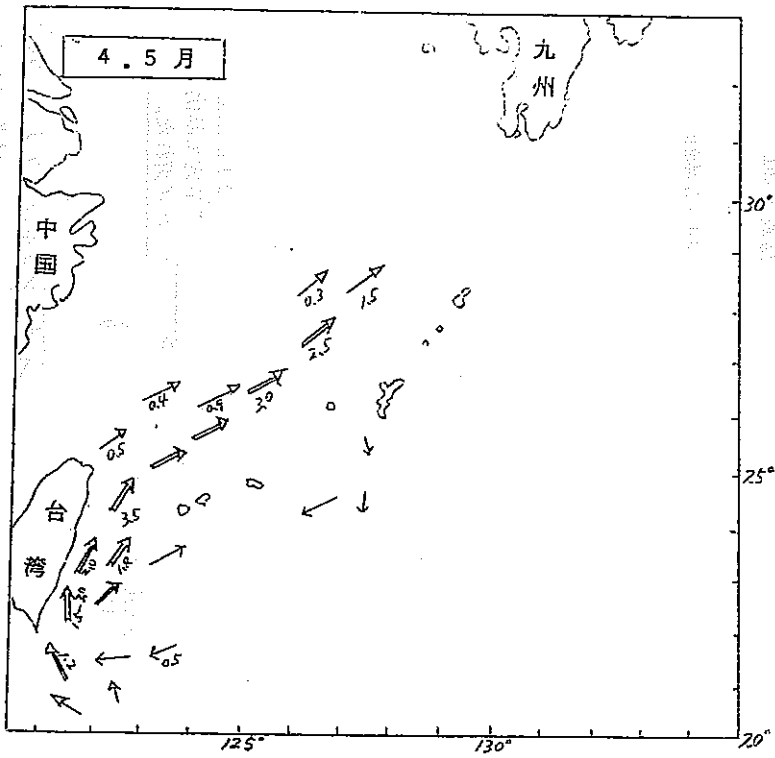
スオ會根附近の海流

凡例 → 0.3節未満 ⇔ 1節以上
 → 0.3至1.0節

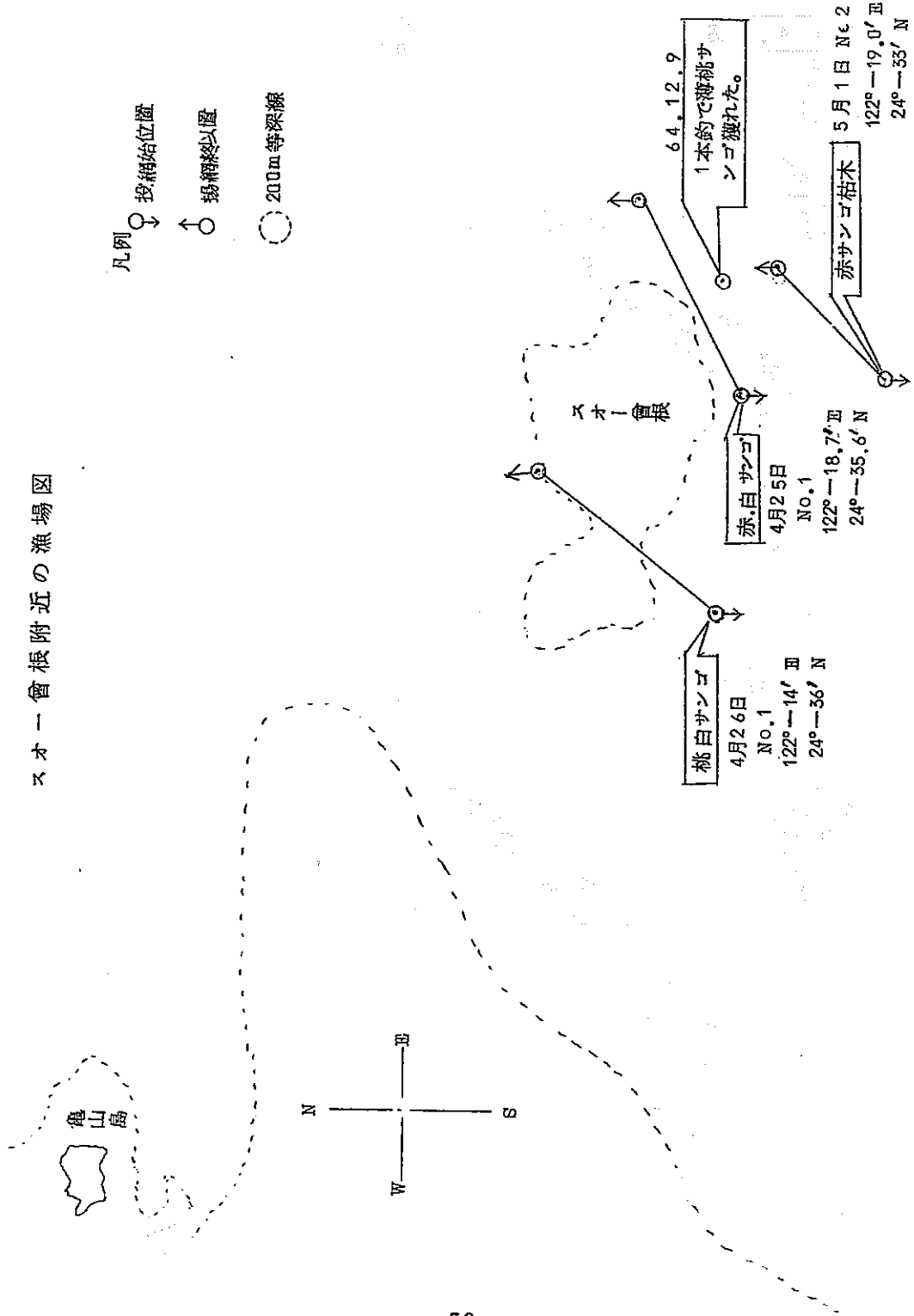


本資料は北太平洋海流図
 No 6031 A,B,C,Dに
 よる。

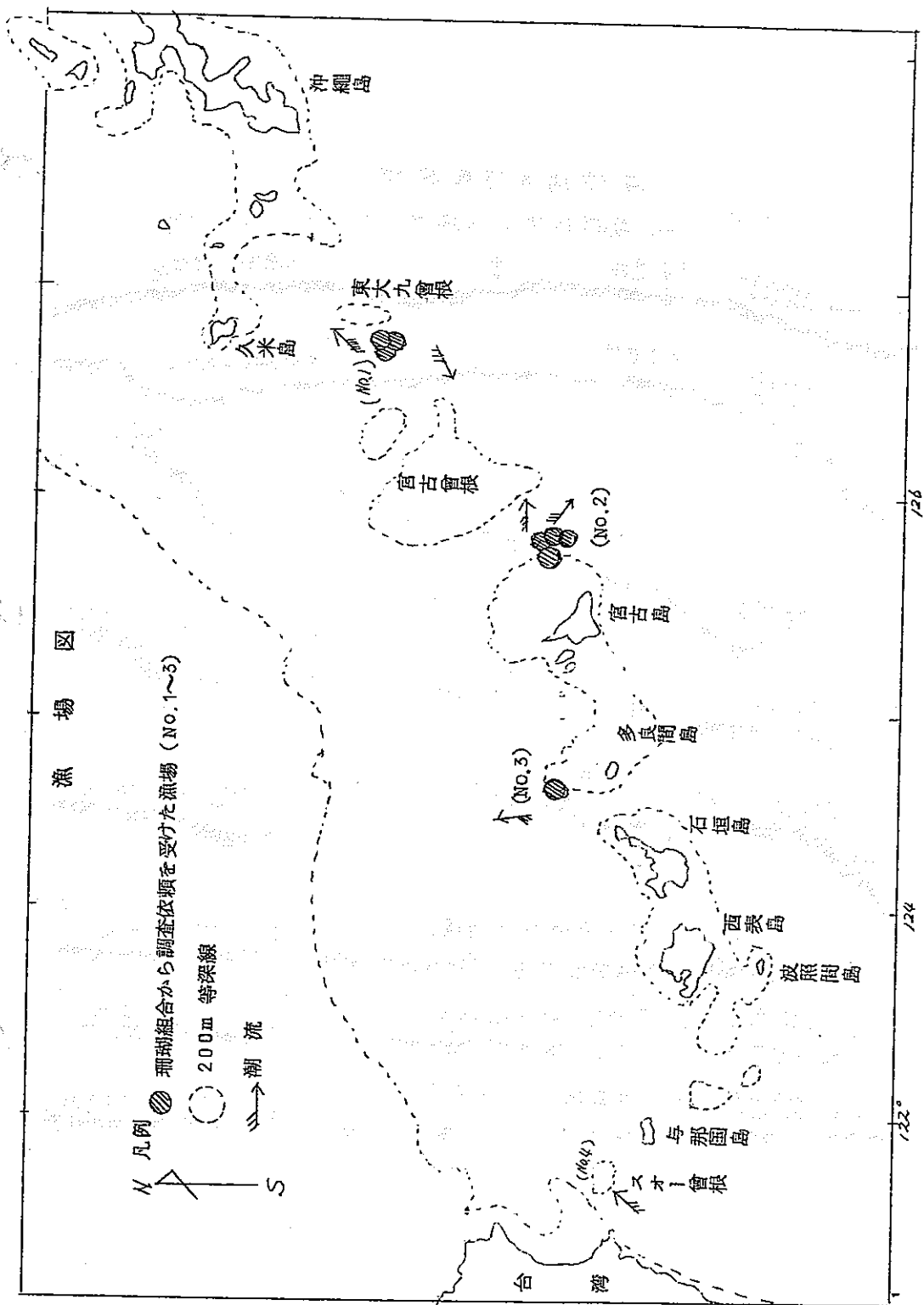




スオー會根附近の漁場図



漁場図



凡例 ● 珊瑚組合から調査依頼を受けた漁場 (No. 1~3)
○ 200m 等深線
→ 潮流

各漁場の海底状況

凡例 → 投網位置 ◊ 揚網位置 ⇨ 主流方向

